

## モデルプログラム H-2 子どもの日本語教育の理論と方法 —日本語の教科書を分析する—

ねらい	子ども向けの日本語教材の分析を通して各教材の特徴や利用方法を知り、支援する子どもの実態に合わせて適切に教材を選択して利用できるようになる。
対象	<input type="checkbox"/> 教師を目指す学生(教員養成課程他) <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員/母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5年-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input type="checkbox"/> 捉える力(子どもの実態把握) <input type="checkbox"/> 捉える力(社会的背景の理解) <input checked="" type="checkbox"/> 育む力(日本語・教科書の力の育成) <input type="checkbox"/> 育む力(異文化間能力の涵養) <input type="checkbox"/> つなぐ力(学校作り) <input type="checkbox"/> つなぐ力(地域作り) <input type="checkbox"/> 変える/変わる力(多文化共生社会の実現) <input type="checkbox"/> 変える/変わる力(教師としての成長)
主な内容	H 子どもの日本語教育の理論と方法     I 日本語指導の計画と実施
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	__60__分
流れ(・項目)	活動(◇活動の工夫)
1. 知っている教科書を挙げる(5分)	1. 子どもを対象とする日本語の教科書や教材を挙げる。 ◇受講者が日本語指導担当者の場合は、実際に使っている持ち寄ってもらう。
2. 構造(文型)シラバスの子ども向け教科書の特徴を考える。(20分) ・日本語指導の内容(シラバス) 構造(文型)、場面、トピック、機能等(H) ・言語教育の考え方と方法(H) ・学習活動(H)	2. 子ども向けの日本語教材と成人向け日本語教材を比べる。 1) 『みんなの日本語』『こどものにほんご』の目次を見て、どのような学習者を対象としているか考える。また、なぜそう思ったかを話し合う。 2) 1)で紹介したもの以外で構造(文型)シラバスの日本語教材の目次を見て、次の観点で共通点と相違点を話し合う。 ・シラバス(構造(文型)、トピック、場面、機能) ・練習の方法(文型の練習、コミュニケーションを重視した練習、ゲームやタスク活動等) ・教科書が想定している活動展開 ・語彙や例文 3) 文型シラバスの教科書を使用する際の留意点を確認する。 ・学校生活、在籍学級の学習に関連づけて表現や語彙を練習する。 ・子ども向けに開発された活動集と併用する。
3. 場面シラバスの子ども向け教科書の特徴を考える。(20分) ・フォーカス・オン・フォーラム(J)	3 『こどものにほんご』と『にほんごをまなぼう』を比べる。 1) それぞれの1課分の内容を見て、1と同様の観点で比較する。 2) 『にほんごをまなぼう』を使って、どんな授業ができそうか話し合う。 3) 場面シラバスの教科書を使用する際の留意点を確認する。 ・場面と共に提示されている言語形式(語彙・表現・文型)を意識して、運用する練習をする。 ・教材には載っていないが、児童生徒にとって必要な場面があれば、その場面を取り上げて日本語の学習ができるようにする。
4. 教科書選定の留意点(15分) ・教材・教具(リソース)の利用と作成(H)	4. 様々な教材を知り、教材を選定するときに留意すべき点を知る。 1) 教材の実物やリストを見て、様々な教材があることを知り、対象児童生徒の年齢的な発達や日本語の力に応じて選択し、適当なものがない場合は、アレンジして利用する必要があることを理解する。 ◇(教科)と日本語の統合学習)で利用できそうな教材の実物や、教材リストを準備する。

	<p>2) 日本語の教材を利用するときの留意点についてまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1種類の教材で対応することは難しい。児童生徒に応じて複数の教材を利用し、組み合わせたり、アレンジしたりして活用する。</li> <li>・成人向けの教科書は児童生徒にはふさわしくない場合が多い。</li> <li>・教科書は必ずしも順番どおりに扱う必要はない(学校生活の中ですでに覚えている表現、子どもが興味を持っている課からはじめてもよい)。</li> </ul> <p>◇その他、各プログラム(サバイバル日本語、日本語基礎、技能別日本語、内容</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生担当教員の場合は市販教材の大半を占める小学生向け教科書を中学生向けにアレンジしてみる活動に代えてもよい。</li> <li>・教材に関する情報 <ul style="list-style-type: none"> <li>『みんなの日本語』スリーエーネットワーク</li> <li>『子どものにほんご』スリーエーネットワーク</li> <li>『にほんごとまなぼう』ぎょうせい</li> <li>『日本語学級』凡人社</li> <li>『ひろこさんのにほんご』凡人社</li> <li>『みえのさんのにほんご』(公財)三重県国際交流財団</li> </ul> </li> <li>・市販の教材・教科書以外で、ネットからダウンロードできる教材のポータルサイト 文部科学省かすたねっと <a href="https://casta-net.mext.go.jp/">https://casta-net.mext.go.jp/</a></li> </ul>